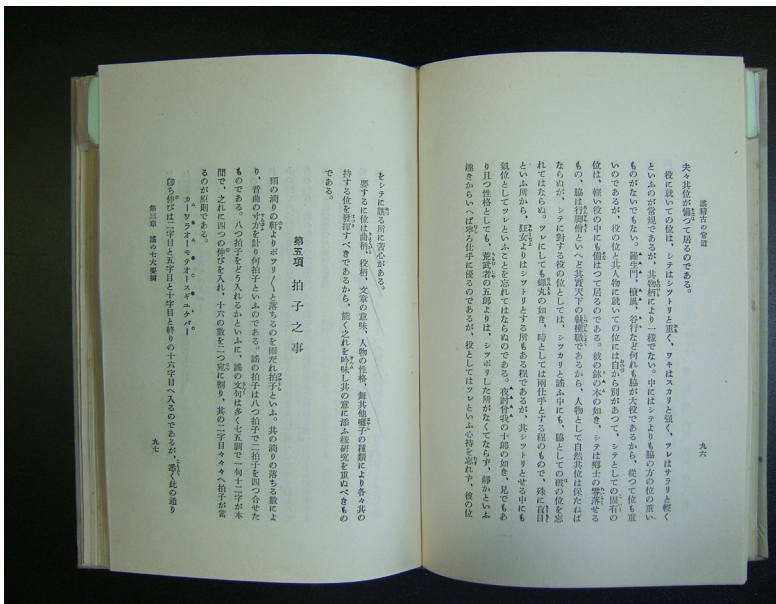


池内信嘉 『謡稽古の常道』

謡の学習者に向けて、学習の心得、術語、周辺知識等を概説する書物。拍子についてはわずかず七頁を費やしているにすぎないが、田中正平の二拍子三拍子混合モデルとその廃棄の顛末にふれたり、「現今の謡師匠には拍子を弁へぬ人が多く、仮りに少しは弁へて居ても、是れを教へると手が掛るから、拍子へ志すと謡が崩れてしまふとか、何とか口実を設けて之れを教へようとはせぬ」と書く等、当時の学識者の現状認識を反映した記述である。



標題 内題：—

標題紙：謡稽古の常道

奥附：謡稽古の常道

その他：謡稽古の常道（巻末・柱・表紙・

背・函）

著者 奥附：池内信嘉

その他の場所：池内信嘉（表紙・序）、東

京音楽学校教授 池内信嘉（標

題紙・背・函）

出版 版次：第一版

出版地：東京

出版社：日月光

出版年：昭和7（1932）

その他の場所：序 昭和7（1932）

形態 冊数：一冊十函 頁数：二二二頁

寸法：19×13（cm）

状態 写本版本の別：版本 現物複写の別：現物

備考